

北海道感染症対策連絡本部 第3回本部会議 記録

日時／令和5年8月4日(金)

14:30～14:48

場所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長(濱坂副知事)】

これより、「北海道感染症対策連絡本部」の第3回本部会議を開催いたします。新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類感染症へ移行し、約3ヶ月が経過したところでございますが、現在の感染状況や、道のこれまでの取組等を共有するために、今回本部会議を開催するものです。それでは、「新型コロナウイルス感染者数の動向等」について、感染症対策監から説明をお願いします。

【佐賀井感染症対策監】

スライドの2、資料1-1「新型コロナの感染動向」です。5類移行後、全国的に増加傾向が続く中、本道の第30週では、全国の15.91を下回る8.83であり、前週と比べ0.09ポイント下回るものの、緩やかな増加傾向にありますことから、引き続き、その動向を注視してまいります。

関連して、スライドの3、資料1-2「夏の注意喚起リーフレット」です。8月を迎え、夏休みやお盆の帰省、イベントなどで、普段会わない方との接触機会が増えるため、ご自身や身近な方、特に高齢者や基礎疾患がある方のため、感染対策と事前の備えを確認いただくよう、道医師会とも協働で広報することとしており、地域の感染動向や実情に即して、道民の皆様に呼びかけてまいります。

次に、スライドの4、資料2「他の感染症の動向」です。全国はもとより、道内でも流行が続く、2種類の小児感染症です。まず、RSウイルス感染症です。2歳までに、ほとんどの子どもが感染し、発熱や咳など、かぜに似た症状で、道内の直近の定点報告数は2.09。流行後、概ね横ばいの状況が続くものの、過去3年の同時期と比べますと2021年に次いで2番目に多い状況です。次に、ヘルパンギーナです。夏に乳幼児を中心に流行する感染症で、発熱や咽頭痛、口腔内の水疱が主な症状で、道内の直近の定点報告数は10.39。過去3年間の同時期と比べ、かなり多く、現時点で19保健所が国の警報基準を上回るなど、感染拡大しておりまして、注意が必要です。いずれも、飛沫感染、接触感染による伝播のため、手洗いやうがいのほか、子どもが触るおもちゃなどの消毒、集団生活の場ではタオルの共用を避けるなど、改めて、その予防に向け、注意喚起してまいります。

次に、スライドの5、資料3-1の「夏の注意喚起」でも触れましたが、国でも、各自治体に対し、夏の感染拡大に対応できるよう、医療提供体制等の確認を求め、道では、この下に、夏の感染拡大に際しても、医療ひっ迫がなく、安心して受診できるよう、一昨日、医師会等の関係団体と「移行計画」などの医療体制等を確認・調整する会議を開催し、5類移行後の取組などを報告して、引き続きの連携・協力を依頼し、関係団体からは、今般の確認事項を含め、今後も情報共有しながら進めてまいりたい旨のご発言があり、引き続き、関係団体等と連携を図りながら、地域実情に即した医療提供体制を確保してまいります。

次に、スライドの6、資料3-2。これは、5類移行後の道の対応方針に、この間の進捗状況を朱書きしたものです。まず、外来体制ですが、住民に身近な医療機関で受診できる医療体制を目指し、診療実績のある医療機関を中心に働きかけてきた中、中央右に記載のとおり、5類移行前の5月7日の1,171か所が、8月1日時点で1,411か所と、240か所の増。

次に、スライドの7。入院体制では、全病院の対応を目指し、これまで入院対応のない病院も含め働きかけてきた中、入院患者の受入れ可能医療機関数は、中央右のとおり、5類移行前の164病院から、6月30日時点で438病院と、274病院の増、また、確保病床は、引き続き、2,006床を維持しております。

次に、スライド9。自宅療養者への診療可能医療機関ですが、右下のとおり、2月1日時点の911か所から、8月1日時点では1,000か所へと、89か所の増。

次に、スライド10。定点把握ですが、まず、中央右下の※印3つ目、入院患者数は、基幹定点医療機関からの週1回の届出とする新たな運用を9月下旬から開始予定の旨、国が示したことから、今後、関係団体等とも連携し、調整を進めてまいります。詳しくは、スライドの12、資料3-3を後ほどご確認いただければと思います。また、右下三つ目のポツ、住民への注意喚起では、国から警報などの基準が示されない中、道では、地域の感染状況に応じ、基本的な感染対策の推奨など、注意喚起しておりますものの、こうした取組は、インフルエンザと同様に全国統一的に取扱うことが適切との考えの下、機会あるごとに国に求めており、7月25日開催の全国知事会の国への提言でも、全国統一基準の早急な設定を強く求め、8月2日には、全国知事会長の平井鳥取県知事が、国に出向き、後藤新型コロナ対策担当大臣に、この提言書を直接手交しております、道としても、引き続き、国に働きかけてまいります。

次に、スライドの13、資料4-1。有識者会議の新型コロナ対応の検証です。(1)の考え方です。これまで、節目節目で振り返り、有識者のご意見等を踏まえつつ対策に活かしてきた中、5類移行に伴い対応が変化したものの、これまでの経験を活かした新たな危機への備えが重要との考えの下、今回、総合的に検証し、備えの検討に反映してまいります。(2)の進め方では、下段の表のとおり、3つの時期に区分の上、「保健医療」などの3分野を検証し、これまで3回の会議を開催しております。また、表の右側のとおり、この会議と並行して、道民や市町村・関係団体へのアンケート調査のほか、医療機関や福祉施設などへのヒアリングなど、幅広いご意見を伺いつつ、年内を目処に検証結果を取りまとめ、(3)のとおり、新たな感染症危機への備えに向け、「今後の対応の方向性」を整理し、次の「感染症予防計画」へ反映してまいります。

次に、スライド14、資料4-2。「感染症予防計画」です。まず、(1)新型コロナへの対応を踏まえ、次の感染症危機に備えるため、改正感染症法の下、都道府県等が来年度から6年間を期間とする計画を本年度中に策定するもので、この中では、有識者会議の検証も反映しつつ、(2)の会議で検討を進めてまいります。今後は、(3)のスケジュールに沿って取り組むほか、(4)その他のとおり、改正感染症法により、新たに、平時に都道府県と医療機関等が協定を締結し、新興感染症の発生・まん延時に、保健・医療体制を早期整備する仕組みができたため、今後、医療機関等と協議を進めてまいります。道では、計画策定を通じ、平時・有事の道や関係機関等の役割分担や連携とともに、必要な機能や体制、施策等について検討していきます。

続いてスライド15、資料5。現在、65歳以上の方や基礎疾患のある方等が対象のワクチン「春開始接種」ですが、道内全ての市町村で接種が進んでおりまして、7月30日現在の接種率は、全国の17.3%に対し、道内は20.4%と、3.1ポイント上回り、65歳以上も全国を上回っております。また、9月予定の「秋開始接種」は、接種可能な全ての年齢を対象とし、「オミクロン株XBB.1系統の成分含有の1価ワクチン」とされるものの、国の補助単価が示されないなど、市町村の体制確保に向け課題があるため、全国知事会を通じた国への要望とともに、接種主体の市町村への適時適切な情報提供に取り組んでまいります。

次にスライド16、資料6。新型コロナの医療従事者等への支援を目的に、令和2年4月から募集の寄附金「エールを北の医療へ！」には、これまで、道内はもとより、広く全国の皆様や企業・団体などから、心温まるメッセージとともに多くのご寄附をいただき、8月3日現在、総額で約13億9千万円が寄せられ、寄附者の皆様に、改めて感謝を申し上げます。道では、これまで、この寄附金を活用し、医療従事者への感謝品の贈呈などを通じて、寄附者の思いをお届けしてきた中、5類移行に伴い、幅広い医療機関による医療体制に移行することから、8月末をもって寄附金の募集を閉じ、現在の積立額は、引き続き、医療従事者の支援につながるよう、検討を進めつつ、今後は、これらに代わり、感染症医療はもとより、本道の医療課題の全般を応援いただける取組として継続できるよう検討していきます。

最後にスライド17、資料7。国では、新型コロナへの対応を踏まえ、感染症危機への司令塔機能を強化し、次の危機への迅速かつ的確な対応に向け、新たに「内閣感染症危機管理統括庁」を設置し、下段の枠のとおり、政府

の行動計画策定や、対策本部の事務、感染症発生に関する総合調整などを一元的に所掌して、そのトップを「内閣感染症危機管理監」とし、本年9月1日付けで設置するとされ、これに伴い、現行の「内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室」は廃止となります。

私からの説明は以上となります。

【副本部長(濱坂副知事)】

続いて、札幌市の感染状況等について、オブザーバーで出席いただいております札幌市保健所の山口所長から発言をお願いします。

【山口札幌市保健所長】

札幌市保健所長の山口でございます。札幌市における定点医療機関当たりの新型コロナの患者報告数でありますけれども、増加傾向が継続しており、ここ数週間は10歳代以下の割合が高い状況となっております。

定点当たりの患者報告数と同様に、市のコールセンターへの相談件数も増加傾向が続いておりましたが、この相談件数は、先週から減少に転じており、学校が夏休みに入って接触機会が減った影響もあると考えているところであります。一方、高校総体の開催や、夏休み期間の旅行等による市外からの人流の増加があるため、下水サーベイランスのウイルス濃度の数値も含めて各種指標を注視し、必要に応じて、市民への注意喚起等を行ってまいりたいと考えております。

以上です。

【副本部長(濱坂副知事)】

ありがとうございます。それでは各部振興局等からご発言があれば、お願いをします。よろしいですか。それでは、本部長からお話をお願いします。

【本部長(鈴木知事)】

新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから3か月が経過しようとしております。本道の感染状況は、概ね横ばいの状態が続いてきたわけでありましたが、昨日公表の7月24日から30日までの報告数は8.83となりました。全国を下回っているものの、5類移行後は緩やかに増加傾向にあるほか、ヘルパンギーナ、RSウイルスなど、いわゆる小児の夏風邪も流行しています。夏休みに入りまして、これからお盆の帰省や各種イベントなど、普段会わない人と接触する機会が多くなりますので、道民の皆様には、手洗い等の手指衛生や換気など、基本的な感染防止対策を実践していただき、体調不良の時には無理せず静養するなど、健康管理に十分気をつけて、この夏を過ごしていただくように、各本部員においては、それぞれの所管や地域ごとに、感染動向など、実情に即した情報発信や呼びかけをお願いいたします。

また、現在、新型コロナウイルス感染症の5類への円滑な移行に向けて、幅広い医療機関で対応いただけるように、地域への働きかけを進めてきたわけでありましたが、入院では、移行前の確保病床を有する医療機関164か所であったものが、6月30日時点で438か所が受入れの意向を示しており、また、外来は、移行前の1,171か所から1,411か所と、対応いただける医療機関が増えている状況にあります。

こうした中、この夏に感染が拡大した場合でも、医療のひっ迫を招くことなく、医療の必要な方が、全道どこの地域でも、安心して医療を受けられるよう、一昨日、医師会等の医療関係団体が参画する場におきまして、「移行計画」をはじめとする道の体制整備の取組の現状等について共有をし、この夏の取組等について確認したところであります。引き続き、医療機関や関係団体の皆様のご協力をいただき、連携を図りながら、地域の医療提供体制の確保に努めるようお願いいたします。

さらに、現在、医療従事者・高齢者・基礎疾患を有する方を対象に新型コロナウイルスワクチンの「春開始接

種」が行われている中、9月以降、接種が可能な全ての年齢の方を対象に「秋開始接種」が始まる予定にあります。道としても、希望される方が円滑に接種できるよう、引き続き、市町村と協力して接種体制の確保に取り組むとともに、道民の皆様には接種の検討を呼びかけるようお願いをいたします。

また、現在、新型コロナウイルスの円滑な移行の取組と併せて、新たな感染症危機にも備えていくため、有識者や専門家の皆様にご議論いただきながら、これまでのコロナ対応についての検証や、次の「北海道感染症予防計画」の策定作業を進めているところであります。

こうした中、検証に関しては、これまで3回にわたり有識者会議を開催し、ご意見や評価をいただいているほか、市町村や関係団体の方々に加えて、道民の皆様にもアンケート調査を行っております。また、「感染症予防計画」も、連携協議会や専門会議等において、議論が深められており、コロナ対応の検証結果を踏まえつつ、関係の方々のご声も伺うなどしながら、実効性のある計画となるよう進めるようお願いいたします。

最後になりますが、この3年半もの長きに渡る厳しい環境の中、新型コロナウイルスの医療に従事された方々への支援を目的として、令和2年4月に募集を開始いたしました寄附金「エールを北の医療へ！」については、これまでに約13億9千万円もの暖かいご支援をいただき、医療従事者の方々への感謝品の贈呈などに活用をさせていただきました。こうした中、新型コロナウイルスの5類移行に伴い、季節性インフルエンザと同様、幅広い医療機関が診療する一般的な医療体制に移行することに鑑み、8月末をもって、コロナ関連の寄附金の募集を閉じることとし、現在の積立額については、引き続き、従事者の皆様への支援につながるよう検討を進めるようお願いをいたします。今後は、コロナ医療に従事された方々への応援に代わりまして、医療全般を視野に、引き続き、「エールを北の医療へ！」を本道の医療課題に応援いただける仕組みとして継続できるように、検討を進めるようお願いをいたします。これまで多大なるご支援をいただきました皆様、そして現在も患者の皆様への対応に当たられている医療従事者の方々に改めて厚く御礼を申し上げます。そして、引き続き、お力添えを賜りますようお願いを申し上げます。

私からは以上です。

【副本部長(濱坂副知事)】

本部長からの指示のあったことについて、各本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、「北海道感染症対策連絡本部」の第3回本部会議を終了します。

(了)